

頼朝塚古墳群現地説明会を開催しました。

財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターでは、栃木県教育委員会の委託を受け、市貝町の頼朝塚古墳群の発掘調査を行っています。平成23年3月6日に行われた現地説明会では、180名の参加がありました。



円墳・方墳各1基の調査結果に注目が集まります



古墳のつくられ方の説明を熱心に聞く参加者

よりともづかこふんぐん 頼朝塚古墳群

—芳賀郡市貝町市塙地内—

栃木県教育委員会

(財)とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター

宇都宮市塙田 1-1-20 TEL028-623-3425

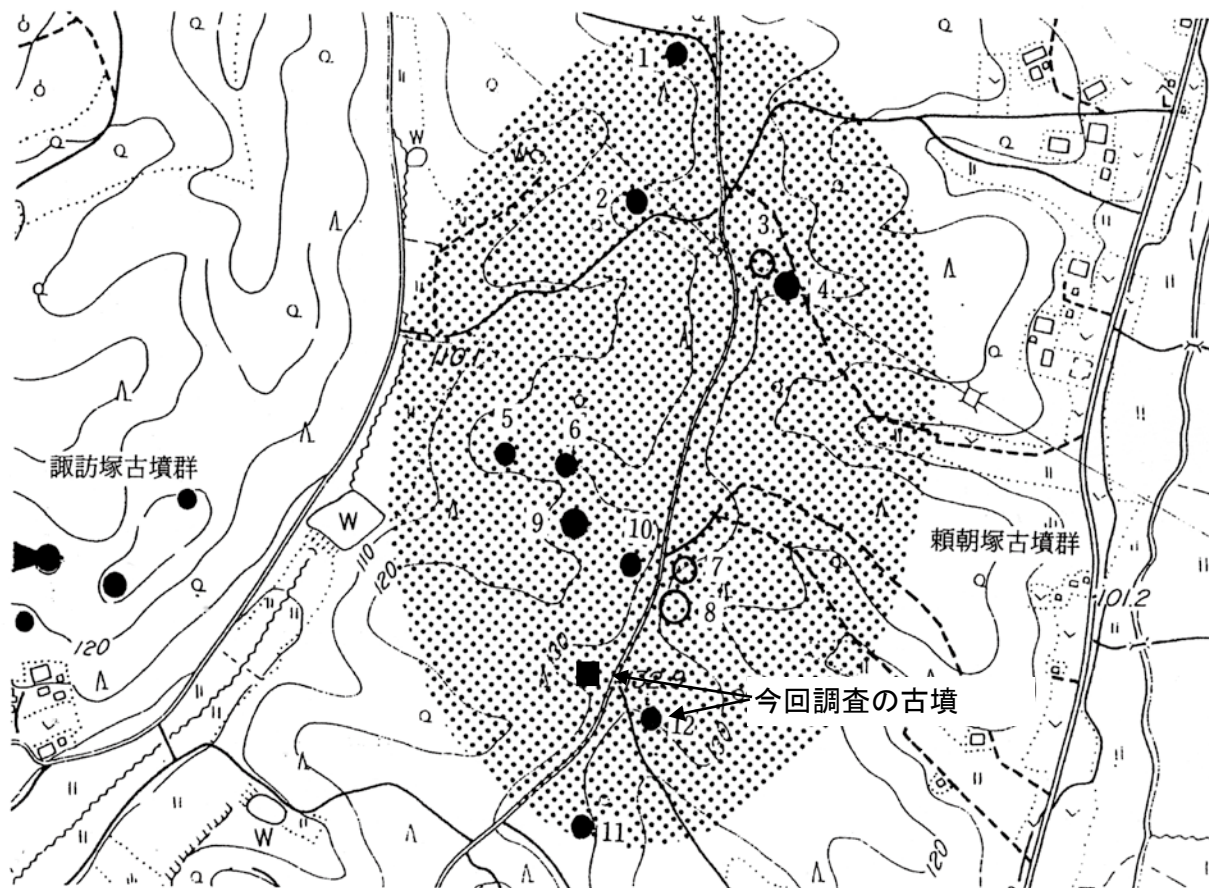
下野市紫 474 TEL0285-44-8441

栃木県埋蔵文化財センターでは、快適な道づくり事業（交付金）主要地方道宇都宮茂木線市塙工区に伴い、平成 23 年 1 月から市貝町の頼朝塚古墳群の発掘調査を行っています。今回の発掘では、古墳時代終末期の円墳 1 基と方墳 1 基を調査しました。円墳は『市貝町史』で頼朝塚 12 号墳として掲載されていますが、方墳は今回新たに見つかったものです。

円墳は直径約 20m で、外側に上幅 2.5m ほどの周溝を巡らしています。遺体を葬った主体部は南側に入口をもつ横穴式石室と考えられます。しかし、石室の石が抜き取られているので詳しい形態はわかりません。周溝内からは須恵器の甕が出土しています。

方墳は、南側が開く「コ」の字形に溝を巡らしています。溝の一辺の長さは 18m 程です。主体部は、墳丘中央部分に位置し、大きな石を用いて石室を造っています。

両古墳とも、出土土器や古墳の形から古墳時代の終わりころの 7 世紀に造られたと考えられます。



頼朝塚古墳群位置図（『市貝町史』第一巻より）



円墳全景（北から）



すえき
須恵器大甕出土状況



方墳全景（北から）